



中乃波木氏の写真展も19日(火)までカレードで開催しています。

持続可能なまちづくりを目指して 津田駒工業株式会社が再生メモ帳を寄贈

8月25日(火)、津田駒工業株式会社が「シュレッターダストの再生」を目的として企画・製作したメモ帳1,800冊を市に寄贈しました。これは、同社と市が7月30日(金)に締結したSDGs（持続可能な開発目標）の推進に係る連携協定に基づく取り組みです。製本は、障がいを持つ人が働く「ふぁみーゆツダコマ」で行いました。従業員に“地域社会に貢献している実感”を持ってもらうことや、メモ帳の貰い手に製作過程のストーリー性を感じてもらいたいという思いが込められています。

“好き”が見つかるカメラ散歩

なかの はぎ 中乃波木と行く カメラでののいちさんぽみち

旧北国街道沿いを歩きながら写真撮影を楽しむ「カメラでののいちさんぽみち」が9月4日(土)に開催されました。写真家の中乃波木氏を講師に、写真の撮り方や魅せ方について教わった後、カメラを持って旧北国街道に繰り出しました。普段何気なく通る道でもカメラを通して見ると、神社に生えるキノコやコケ、路地に咲く花、瓦屋根の形など、たくさんの興味と発見があったようです。参加者らの個性が光る作品は、カレードとカメラアでそれぞれ展示されます。



メモ帳は今後、市内学校でのSDGs教育などに活用されます。



梨も3種類あり、人気の「幸水」はあっという間に完売。

富奥の食の魅力を発信！ 夏の富公祭

8月22日(日)、富奥防災コミュニティセンターで富公祭がありました。富奥公民館が企画し、近くの石川県立大学附属農場で作られた野菜や果物が販売されました。新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小しての開催となりましたが、ぶどうだけでも4種類、スーパーには並ばないめずらしい品種が並び、来場者を楽しませました。親子で訪れた女性は、「県立大学でこんなにたくさんの野菜や果物を栽培していると知らなかった。食べるのが楽しみ！」と話しました。

ツバキの油 たくさん Get だぜ！ つばきに学び、あそぶ

8月29日(日)、野々市中央公園でツバキを学び、油を搾るための種の収穫体験がありました。主催したのは市民活動登録団体のe-やん。昨夏に行った「つばきをまるごと知ろう」を発展させ、ツバキから油を搾る体験を通して、ツバキのまちづくりに貢献したいという思いから企画されました。残暑の厳しい中、大きくまるまるとしたツバキの実を、10組の親子が夢中になって収穫していました。12月にはいよいよ搾油体験とツバキ油の活用について学びます。楽しみです。



お土産にはツバキを使ったパンやクッキーが配られました。

Focus

まちの話題
皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎ 227-6056

ごみ分別とリサイクルを学ぶ

放課後子ども教室 ごみ分別検定・リサイクル教室

放課後に、子どもたちが地域のボランティアと一緒にさまざまな体験活動を行う放課後子ども教室。2つの小学校や学びの杜ののいち カレード、にぎわいの里ののいち カミーノ、こどもセンターの5教室があり、元気いっぱい活動しています。その一環で、ごみの分別やリサイクルについて学ぶ教室が行われました。ポテトチップスの袋、新聞紙や傘など身近なごみを8つの分類に分けるごみ分別検定に挑戦し、市のごみ収集運搬を行っている株式会社トスマク・アイの協力のもと、リサイクルの流れを学びました。9月13日(月)に行われたこどもセンター教室では、市役所裏に実際の収集車が登場。一台で集積場60～70カ所分のごみを集めることができるという大きな車体を近くで見た子どもたちは大興奮の様子でした。



高く開いた荷台にみんなびっくり



二つの分別クイズ



12種類のごみを8つに分類



ハンドル大きい



ごみの投入も体験しました



またとない貴重な体験に、生徒は熱心に取り組んでいました。

火に思いをのせて パラリンピック聖火フェスティバル

8月16日(月)、明和特別支援学校で東京2020パラリンピック聖火の採火が行われました。採火には昔ながらの火起こし道具「まいぎり」が使われ、同校の生徒7人が火起こしに挑戦。なかなか発火せず苦労する場面もありましたが、火が起ると会場には歓声と拍手が沸き起こりました。パラリンピックの趣旨である共生社会の実現へ、県内9つの特別支援学校で採火された火は一つとなり、「石川の火」として世界最高峰の障害者スポーツ競技大会へ届けられました。

ツバキ入りのユニフォームは市のPRにも 野々市ミニバスケットボールクラブ女子

野々市小学校2～6年生28人で日々練習に励む野々市ミニバスケットボールクラブ女子。5年振りに試合用ユニフォームを新調し、市花木ツバキが入った野々市愛に溢れるものとなりました。キャプテンの宮腰心さんは「新しいユニフォームは気持ちが引き締まる。初めて見たときはツバキが入っていてびっくりした！」と話しました。チームの出村監督によるとツバキのワンポイントには、他チームとの話題作りや市PRのきっかけになれば、との思いが込められているそうです。



チームカラーのターコイズと白色の生地にツバキがマッチ。